

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501589		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム トロの森 1Fユニット		
所在地	札幌市清田区美しが丘4条7丁目7-12		
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501589&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①個別ケアと社会交流:個々の意向に沿えるよう、日頃の会話から本人の思いを把握するよう努めている。場合によっては、外部関係者にも協力を依頼し本人が満足感を得ることができるよう支援している また、戸外へ出る機会を多くするように努め気分転換と社会との交流を大切にしている。
②地域との交流:町内会役員として積極的に地域の行事などのお手伝いに参加している
③職員の介護意欲を高める。職員が元気である事が利用者の元気に繋がり、職員の意欲へと還元されると考え研修参加をはじめ、外部における活動の機会を積極的に持ち介護意欲＝介護の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設10年目を迎え、利用者が自信と存在感を感じながら暮らし続けることができるよう、常に寄り添う姿勢を基本においてケアを実践している。管理者は基本姿勢を常に念頭に置きながら職員育成に力を入れ、事業所全体が統一した認識の下でケアに取り組んでいる。職員の意欲向上につながる研修や個々の能力を活かす機会を提供しており、職員のケア意識は高い。利用者の当たり前の暮らしを支援するために地域とのつながりを重視し、町内会行事や清掃活動などへの積極的な参加、事業所の機能を活かす出前講座の開催、同業者との交流など、多岐に亘る相互交流をしている。さらに、医療機関との連携を密にし、常に情報交換を行い利用者・家族の安心につなげている。また、利用者が楽しみにしている外出は、行事などで全体で行くだけではなく、個別の要望にも対応し日常的に外出できるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアケア交流講座や地域の行事にホームの利用者が参加し地域と交流している	事業所の基本理念に基づき年度末に評価を行い、職員全体で話し合い次年度目標を作成し、日々のケアに活かしている。利用者が自分らしく生きるための支援を常に念頭に置き、職員全体で意識統一を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の役員を引き受けている。地域行事にはボランティアに行っている。地域行事(餅つき、夏祭り)への参加およびホームの行事へも、地域の方々に参加して頂き交流を深めている	植栽や畑づくりを通して利用者・家族と地域住民が交流している。管理者は町内会役員として地域と積極的に関わり、認知症に関する出前講座「ケアケア講座」を年3回開催している。また、利用者が当たり前の近所づきあいの中で生活できるように、近隣住民の日常的な来訪、児童会館の児童の来訪、同業者との交流などに積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアケア交流講座を年3回、地域の方々に向けて勉強会を開催している。認知症サポーターの開催。現在、SOSネットワーク徘徊模擬訓練の開催に向けている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催し地域の方々に状況報告や意見等を頂きサービス向上に活かしている。昼食体験のご意見を反映	利用者・家族を含め町内会長、地域住民、地域包括支援センター職員、消防署職員も参加し、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。事業所の状況報告や行事の案内、町内会との相互交流、防災についてなど多岐に亘って協議し意見を活かすよう努めている。毎回参加する消防署員からは、防災や避難訓練の情報やアドバイスを運営に反映している。時には昼食体験を行い、意見を活かす取り組みもしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや介護保険、生活保護の窓口等で連絡を密に取り組んでいる	管理者は認知症介護指導者でもあり、区のケア連絡会やSOSネットワークなど行政と共に作りあげており、日常的に協力関係を築いている。また、地域包括支援センターほか行政の支援を受け区のグループホームと共に「徘徊・見守りSOSネットワークフォーラム」を開催するなど積極的に連携している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修等にスタッフが参加している。管理者は折あるごとに具体的場面を取り上げ指導している	リスクマネジメントチームが中心となり、年4回ヒヤリハット内容を職員全体で検証し学び合い、身体拘束をしないケアに努めている。職員は高齢者虐待防止研修を始め、様々な研修に参加し理解を深めている。また、管理者は機会あるごとに適切なケアについて指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、外に研修を設けている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内ミーティングで職員に伝えている、研修にて学んでいる			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族と十分に話し合い、十分に行っている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情箱の設置し要望を検討している。定期的に「ご意見用紙」を届けている。1・2Fユニット利用者合同の「寄り合い」を開催し、意見交換をしている。	行事や運営推進会議を通して意見や要望を聞くと共に、家族の来訪時にお茶や食事を一緒にしながら希望を聞くなど意見を言いやすい雰囲気づくりに心がけている。また、3ヶ月毎に「ご意見用紙」を家族に送付し、家族の思いや意向を把握する機会としている。さらに2つのユニット合同で2ヶ月に一度「寄り合い」を開催し利用者の意見や要望を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やミーティングにて意見を聞いている	毎月の合同ミーティングは職員の気づきや提案の機会にしている。個々の課題に対しては、管理者が個別面談で意見を聞き運営に反映している。また、職員の希望を取り入れたり、研修会参加など職員の自己啓発の機会を確保したシフトづくりをするなど、働きやすい環境を整えると共に職員の意欲向上につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度導入しスタッフの意欲向上に努めている。自らの頑張りを外部に向けて発表する機会を作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会(内・外部)の機会を設け、他事業所の見学も行っている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会、他施設の見学、行事参加など行っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人の話聞きセンター方式、アセスメントによりケアに繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学、体験、自宅訪問、面談など家族の希望に添うようしている。入居が決まった時点で(入居者の家族には1年に一回)センター方式シートをお渡しし、家族の思いを文字にさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望があった時は外部の支援を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、人間関係として、人生の先輩として意見を貰っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を含めた家族カンファレンスの実施、本人と家族の希望、意見を取り入れている。積極的にホームへ来ていただく機会を作っている。外出行事にもお誘いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の社会資源の活用(美容室など)	近隣に霊園があり、墓参りの帰りに寄る知人や学生時代の友人などが来訪することも多い。また、受診帰りに以前住んでいた自宅を訪問したり、家族と一緒に遠方へ旅行するなど、馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移った場合などご家族の了承を得て情報を提供、相談に乗っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの実施(行きたい所・食べたいもの・趣味等)、本人の希望、意見を取り入れている	利用者の状況変化を踏まえ毎年アセスメントを行い、利用者と家族からケアへの思いや意向を確認している。また、日々の生活場面での関わりをアセスメントの機会と捉え、一人ひとりの言葉や表情、仕草から思いや希望を把握すると共に、2ユニット合同の「寄り合い」では職員間で情報を共有し、多面的な角度から利用者・家族の思いを受け止めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を取り、家族からの情報を貰って実施			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望、体調に合わせた一日の過ごし方に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族カンファレンスの実行、主治医やかかりつけ病院の看護師との連携、本人の思いや希望、言葉に傾聴している	月1度のカンファレンスでは、日々のケア記録を基に職員全体で利用者一人ひとりの状態に合わせケアプランを検討している。モニタリングは長期・短期目標の期間設定に合わせ評価を行い、ケアの見直しをしている。長期目標の評価時期には家族カンファレンスを実施し、家族の意見や要望を聞き介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きポケットの利用、職員間で情報交換を行っている。本人の言葉を大切に日々の記録をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望、通所者の利用時間、曜日の変更などニーズに合わせて支援している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、児童会館、地区センターなどの利用、地域の人達との交流がある			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけの病院、主治医が決まっているご家族様の受診同行や受診報告を行っている	協力医療機関とは日常的な診療と共に緊急時の支援、健康診断、保健指導などを受けることができる体制を整え、医師、看護師との信頼関係を築いている。かかりつけ医の受診も必要時には、家族と一緒に職員が同行し、情報を共有しながら適切な医療を受けられる支援を行っている。	医療機関から検査データなどの情報を提供してもらい、利用者の健康管理に努めているが、利用者一人ひとりの健康状態に対する総合的な所見の記録がない。加齢に伴う健康状態の変化に適切に対応していくため、経年で健康状態がどのように推移しているかがわかるような記録方法を考慮し、さらなる健康管理体制の充実を期待したい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が不在の時は他事業所の看護師と連携をとり相談等を行っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の共有に努め、掛かりつけの病院には密に相談、連絡を行っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、家族や本人から意向を聞いている	重度化や終末期の対応については、利用開始時に利用者、家族に説明し同意を得ている。事業所は看取り経験があり、重度化した場合には本人、家族の意向を聞き、医師、看護師と関係者で協議を行い、利用者、家族の希望に沿うよう努めている。看取りの指針作成を考慮中である。	管理者は重度化や終末期に向けた指針の必要性を認識しており、現在職員が看取りに関する研修を順次受講する予定である。利用者の高齢化に伴い看取り体制の必要性を考慮し、事業所の限界も踏まえながら指針を作成し、利用者の安心につなげる支援に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講義を受けたり、連絡網の備えを行っている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と協定で契約を結んでいる	年2回、地域住民と消防署の協力の下、利用者と一緒に避難訓練を行っている。緊急時通報システムの連絡網に複数の地域住民も登録し、非常時の協力体制も構築している。事業所の防災管理者を中心に定期的な点検と共に毎日の防火担当者による防火点検を行い、安全に留意している。また、現在非常持ち出し物を準備中である。	予期せぬ自然災害の可能性を考慮し、非常時の防寒具、飲料水、食料などの備蓄に取り組むこと。さらに災害時環境に馴染めない認知症高齢者が避難できる場所について、行政や近隣の大型福祉施設の協力を得て確保することと、併せて避難場所の家族への周知が望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴等は同性介助にて行っている	一人ひとりのプライバシーを尊重しながら声をかけている。入浴や排泄介助は同性介助に心がけ、羞恥心に配慮している。居間に面したトイレには、スクリーンカーテンを施すなど工夫している。個人記録ファイルなど所定の場所に保管し、個人情報保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アンケートの実施、利用者の希望、要望を取り入れている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に、その日の過ごし方や行きたい所を聞き実施している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容希望の取り入れ、外出、受診に行く際の身だしなみの支援を行っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の買い物や、調理、配膳を行ってもらっている	利用者の希望や旬のものを取り入れた献立を職員が立てて調理している。職員と一緒に近くのスーパーに食材の買い出しに行ったり、調理の下ごしらえ、配膳、下膳などの役割に利用者一人ひとりの力を発揮し、楽しく食卓を囲んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に一人、一人の体調等を把握、必要な食事量や水分量を摂取できる量、器や声掛け、調理法を工夫し提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の体調に応じて、口腔ケアの声掛け、見守り、一部介助を行っている。訪問歯科衛生士が定期的に来ることで相談できる			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の時間調整や声掛けの工夫を行い、一人一人の排泄パターンに応じて一部介助を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながらさりげなく声をかけている。オムツは極力使わないようにし、日中はトイレで排泄できるよう自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、水分量を多く、活動で体を動かす			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に添うように体調や気分に合わせて対応、暑い日のシャワー浴等	基本的には週2回以上の入浴を勧めている。夏場の暑い時期には毎日シャワー浴を行い、清潔を保つよう支援している。入浴を拒否する人には強制せず、日を改めて声かけするなど工夫しながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前のホットミルク提供、夜中眠れない方に話を聞く			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用を理解し観察を行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の希望を聞き外出計画を立てている、本人の好きなものを買に行き。ウインドウショッピング、ペットショップなど個々に支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買物や地域の方、ボランティアと近所のレストランや小舎に出掛けている。月に一度カラオケ、ペットショップなどにも出掛けている	買い物や畑作業、洗濯物干し、町内の回覧板を届けたり散歩代わりに地域の清掃活動を行うなど、利用者が毎日戸外で過ごすことができるように支援している。四季折々の名所見物や温泉旅行のほか、コンサートを通して他の事業所と交流するなど、変化のある生活を提供している。時には利用者の希望でカラオケやスナック、レストランなどに出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい、食べたいとの本人の希望時に本人にお金を財布から出してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話、手紙をポストに投函している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に写真や季節感のある飾りつけをしている。温度、湿度計を日中に二度、確認している	チャイムのついた内戸を開けると廊下伝いに食堂兼居間があり、対面式にキッチンを設けているので、調理の際の美味しそうな匂いや音を感じることができる。壁には行事や旅行に出かけた写真や四季を感じる品を飾り、休憩スペースのベンチに利用者の手づくりキルト座布団を置き、家庭的な居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的室、廊下の畳椅子で話をして頂いている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は以前から使い慣れた物を部屋に置き、壁には写真や好きなカレンダーを飾っている	使い慣れた家具や思い出深い調度品、仏壇などを置き、家族写真や懐かしい写真を飾り、家族の温もりが感じられる居室となっている。また、手づくりのパッチワークに囲まれ生活するなど、利用者一人ひとりがその人らしい雰囲気の中でゆったりと暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を取り付け、出来る限り自力で歩けるようにしている。トイレなど分かり易い箇所に明記を表示している		